



140を超えるNGOが集結 G8サミットNGOフォーラム

洞爺湖サミットに民間の立場や視点からの声を届けようと、グローバルなNGOの連合体として発足した2008年G8サミットNGOフォーラム。そのユニットのひとつ環境ユニットでは、地球環境基金の特別助成団体はじめ多くのNGOが連携し活発な活動が行われました。環境ユニット事務局の星野智子さんに、環境問題から洞爺湖サミットを振り返っていただきました。



2008年G8サミットNGOフォーラム
環境ユニット事務局
星野智子さん

民間の声を 洞爺湖サミットに

2007年1月末、日本が議長国を務める翌年7月の洞爺湖サミットに向けて、日本のNGOが活動分野の境を越えて集まり、「2008年G8サミットNGOフォーラム」

(以下NGOフォーラム)が結成されました。貧困と開発、環境、人権と平和など地球規模の課題に対して、世界の市民社会との連携を通して要請や提案をしていくために、ここに集まったNGOの数は、最終的には140団体を超えます。

NGOフォーラムの構成は、途上国の貧困と開発、保健、教育などを課題とする「貧困・開発」、地球温

暖化や生物多様性などを課題とする「環境」、軍縮や平和構築、人権問題などを課題とする「人権・平和」の3つのユニットから成り、フォーラム全体としての活動に加えて、それぞれのテーマ別の活動に取り組んでいます。

環境ユニットは、2006年末ごろから環境活動をしているNGOに向けて参加の呼びかけを始め、NGOフォーラム設立時には約20団体程度でスタート。さらに、沖縄・九州サミットやヨハネスブルグサミットで活動したNGOへの呼びかけや、各地の環境パートナーシップオフィスを通じて情報発信などを通じて、最終的には73団体の加盟をみています。地球環境基金からの助

成金をおもな資金源として、2名の非常勤スタッフを置いて事務局運営を行いました。

洞爺湖サミットに際して環境ユニットとして重点的に取り組んだ課題は、「気候変動」「生物多様性」「3Rイニシアティブ」です。具体的な活動としては、シンポジウム、地域ミーティング、勉強会の開催などの啓発活動、アドボカシー(政策提言)活動、ボジションペーパー(提言をまとめた文書)の作成など。また、大臣との意見交換など、洞爺湖サミットで有効な議論をしてもらうための政府との意見交換や、環境省や経済産業省、企業などとの対話の場を設けての意見交換などを行いました。



境界を越え みんなの手を携えて

環境ユニットからみた洞爺湖サミットの最大の成果は、フォーラム全体では140以上、環境ユニットでは73の日本のNGOが、分野を越えて同じ目的のために手を携えることができたことだったと思います。たとえば一口に環境NGOと言っても、自然保護に取り組んでいる団体、ごみの問題に取り組んでいる団体、ごみの問題に取り組んでいる団体というように運動の社会的



市民サミット・オープニングシンポジウムの円卓会議

背景が異なれば意見の違いもあります。協調を図りつつ、まとめることができたのは大きな一歩です。個々のNGOにとっても、多くのNGOと出会って学びあうことができ、今後の成果が楽しみです。

このNGOフォーラムの実現が大きなインパクトとなり、福田元総理をはじめ政府との意見交換会などが実現しました。また、メディアにも頻繁に取り上げられ、一般の方々に活動を知ってもらう機会も多かったと思われます。

日本のNGOは欧米に比べアドボカシー活動が得意でないとされてきましたが、環境問題は地球規模で広く複雑になっています。地道な実践とともに、政治や法律などの仕組みに働きかけていくことは不可欠であり、今回その土壤ができあがったといえます。

連携の輪を未来に つなげるために

NGOフォーラムは、洞爺湖サミット開催期間中に、G8サミット市民フォーラム北海道と共催で「市民サミット（オルタナティブ・サミット）」を実施。「市民によるもうひとつのサミット」と位置づけ、多くの市民やNGOが参加できるようなワークショップやシンポジウムを企画しました。また、「100万

人のたんぎくアクション」のキャンペーンでは、七夕の風習になぞらえて「これからの世界がこうなっていってほしい」というメッセージをたんぎくに記し、広く世界に支持を呼びかけました。これに対して、70万人を超える賛同が集まり、アドボカシー活動を後押ししてくれました。

昨今、一般のNGOへの関心度が高まり、環境活動に関しても、エコライフやスローライフのブームも手伝ってか、ながしのかのエコ活動を実践している人が増えているように感じます。これを一過性のトレンドに終わらせないためには、ライフスタイルを変えることと同時に、議会や国際会議などの政策決定の場に代表者を送るなど、環境に関わる仕組みへ働きかけるアクションを、車の両輪のように合わせて行っていく必要があると思います。また意見や活動に共感できるNGOがあれば、気軽に遊びに行ってみてほしいものです。

今後の環境ユニットのテーマとしては、今回の連携を大切に、世界に影響力をもっていくこと、マスコミを味方につけて広く情報を発信していくこと、さらに消費者団体とのコラボレーションを図り、消費者運動と環境運動が手を携え市民の消費行動から環境問題に取り組んでいけるような新たなアプローチなどを考えています。



①市民サミット・オープニングセレモニーでは、民族楽器の演奏と先住民族の祈りも ②7月7日夜、札幌・大通公園には、「世界はきっと変えられる」の思いを込めて市民らによる「携帯天の川」が出現